

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSWニュース 12月号

2020年12月1日発行  
No102

事務局：沖縄県総合福祉センター  
西棟 2階 小規模団体室

〒903-8603

那覇市首里石嶺4丁目373-1

TEL 準備中

FAX (098)893-1221

E-mail Jim.msw.oaswhs@gmail.com

広報部編集担当：下地 舞  
(那覇市立病院)

\*\*\*\*\*

MSWニュースは毎月初めに  
MSW協会ホームページに更新掲載されています

<http://www.msw-oaswhs.jp/>

**今年度末でニュースの郵送を終了します。**  
**MSW協会公式LINE加入のお知らせを**  
**確認して、加入してください。**

\*\*\*\*\*

☆contents☆

MSW協会公式LINEについてのご案内……………P2

研修参加報告……………P3

トピックス……………P4

11月理事運営会議録……………P4

<休載>

部会からのお知らせ、新入会員紹介、

在宅医療・介護連携報告、自主勉強会報告

## MSW協会公式 LINE のご案内

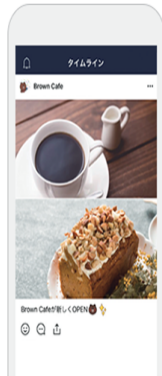
今年度末をもって、郵送でのMSWニュース配布を終了し、ホームページ掲載のみとなります。

毎月初めに公式 LINE でご案内していますので、友だち登録をお願いします。

**R2年度総会資料と一緒に、会員の皆さんへQRコードを郵送済みです。**  
**沖縄県MSW協会員の皆様は、下記の流れに従って登録して頂くようご案内いたします。**

### 使い方

- ・タイムライン  
研修報告など協会活動を  
見ることができます
- ・トーク画面  
協会からのお知らせを確認します
- ・メニュー  
協会ホームページ、研修、MSWニュース  
それぞれのリンクにジャンプします



### 友だち登録の方法①

LINEを開く

- ①左下の△（ホーム）をタッチ
- ②検索欄に入力  
「沖縄県医療ソーシャルワーカー協会」
- ③「友だち追加」

完了!!



### 友だち登録②

LINEを開く

- ①検索欄の右端にある□のマークをタッチ  
(QRコードリーダーが起動)
- ②QRコードに合わせる  
→協会LINEにジャンプ  
(QRコードは、5月総会案内と一緒に郵送済み  
です。ご確認ください。)
- ③「友だち追加」

完了!!



### ぜひ、協会LINEに友だち登録を!!

ご意見、ご質問は  
広報部担当までお願いします

沖縄協同病院 地域連携課

長 (おさ) 098-911-5167

ハートライフ病院 患者総合支援センター

高澤 098-895-3255

LINEで  
友だちになろう!



### 令和2年度 第2回 沖縄県がん相談員実務者研修会

#### にんようせい 「妊孕性温存療法」参加報告

那覇市立病院 仲宗根 恵美

11月7日(土)沖縄県立中部病院にて、沖縄県がん相談員実務者研修会「妊孕性温存療法」が開催されました。看護師、医療ソーシャルワーカー、臨床心理士、学生の14名が参加していました。前半1時間は、琉球大学病院 周産母子センター教授 銘苺桂子先生による「妊孕性温存療法」のビデオ講義でがん治療による生殖機能への影響や基礎的な知識を学び、その後、1グループ3～4名に分かれてワークショップを行いました。

妊孕性とは“妊娠する能力を残すこと”をいい、放射線療法や抗がん剤治療により、将来子どもを授かることが困難になる可能性がある患者さんが、がん克服後に子どもを授かる可能性を残しておく方法として妊孕性温存療法があります。

ワークショップでは、2つの事例について検討を行いました。1例目は20代患者さんとの面談、2例目は12歳と5歳の患者の両親からの相談への対応について話し合いました。医師から「妊孕性温存の希望があるか確認してほしい」と言われたとき、両親から相談を受けたとき、私ならどうやって面談を進めるだろうか考えながら話し合いに参加しました。“妊孕性の話”と言われると、身構えてしまいますが、私達ソーシャルワーカーは、面談の中で、生活歴や家族背景などその方を取りまく環境も確認します。普段の面談でも、治療後の生活にも目を向けて考えてもらえるように、長期的な目標についても話し合っていると思います。そう考えれば妊孕性温存療法も、難しく考えず面談の中で自然に話題にしていくことができると思いました。ただ、そのためには自分自身が正しい情報と知識をもつことが必要であることも感じました。

小児・AYA 世代(15歳～39歳)と言われる患者さんは、治療以外にも、進路、仕事、恋愛など、その年齢特有の悩みもあります。妊孕性温存だけでなく、初めて聞く言葉や、経験・対応したことのない相談を受けたときには不安になることがあります。どのような相談であっても、まずは患者・家族の話聞き、一緒に考え、一緒に悩み、共感する姿勢が大切だと改めて思いました。また、心理的な支援を行うためには面接技術だけでなく、正しい情報を提供し、この先どのように進んでいくかをきちんと説明することも大切だと思います。患者・家族へ質の良い支援が提供出来るよう、ソーシャルワーカーとして常に学び続けることの必要性を改めて感じました。

最近では、オンライン研修が多く、少しずつ慣れてきていましたが、久しぶりの集合研修で顔を見て話すことの大切さ、楽しさを感じることができ、また様々な立場の方と意見交換が出来、とても有意義な研修会でした。

## トピックス

---

### 「自分らしい暮らし」提供 過疎地での支援 沖縄タイムス暮らし相談(医療) 2020年11月16日(月)掲載済 県医療ソーシャルワーカー協会 山城 つきえ

---

ワッター(私たち)島のかじー(風)は違うんだよ」とK氏は目を細めて話された。

朝は鳥のさえずりを聞きながら目をさまし、野菜を作り魚釣りをして隣近所の人に分け、夕方はなじみの友人たちとビールをたしなむ。やんばるの風にふかれて、できるだけ過ごしたい……。

入院時の面談で今後の生活意向を聞かせてもらった場面である。有料施設、訪問看護等の在宅サービスが充足していない地域では、脳梗塞発症後で片麻痺があり独居のK氏が自宅で生活していくには困難な壁がある。トイレ、浴室は屋外にあり、段差が多い自宅環境では車いす移動も難しい。意向に添った支援のため、地域やご家族の協力態勢など環境整備に向けた調整を早期に行うことになった。地域包括支援センター、ケアマネジャーらと話し合いを重ねる間、K氏自身は積極的にリハビリに取り組み、発症から半年後の退院時には下肢装具を装着し杖歩行が可能となり、念願の自宅へ戻ることができた。

スイスの心理学者ユングは人生を太陽時間になぞらえ、少年・成人・中年・老年期の4段階に分け、40～50歳を「人生の正午」とした。後半は最期(死)を意識し、前半期の人生と照らし合わせ顧みながら生きていく、と唱えている。その人生の過程を政策に反映したように、国は「住み慣れた地域で自分らしい暮らし」を実現するための地域包括ケアシステムとして、地域での包括的な支援・サービス提供態勢構築を推進している。

離島や過疎地域が多く、在宅サービスが少ない地域だが、やんばるの風を大切に思う方々の希望に添い、包括支援センター、在宅サービス事業所、ケアマネジャー、MSWは、チームワークを高め共に歩めるよう取り組んでいく。

## 11月理事会議事録

---

### 2020年度 沖縄県医療ソーシャルワーカー協会理事会

2020年11月16日(月)19:00～21:00

場所: @沖縄県総合福祉センター

---

【出席】新垣会長、當銘副会長(司会)、安慶名副会長、秦副会長、樋口、長、伊禮(連絡)、  
石郷岡(書記)、大久保、井上

【委任】香村、小橋川、山城、高江洲、奥平

## <各部報告・協議事項>

〔研修部〕 大久保

□ 入退院支援連携デザイン事業研修「在宅医療・介護連携に係る多職種研修」について意見交換を行いました。

テーマ:「COVID-19 感染拡大<緊急事態宣言>下の入退院支援連携  
～第3波に備えて事例に学ぶ～」

日 時:2020年11月28日(土)13:30～15:00

申込者:104名(11/16時点)

費 用:

・zoomライセンス関連費用(500名用のライセンス、アカウント追加)→承認

・謝金、交通費関連費用→承認

・PCレンタル費用(最低でも2台追加必要)→レンタルしない理事のPCを借用

資 料:研修終了後、アンケート集計結果と合わせて資料配布を行う(希望者のみ配送)。

人 員:意見交換の座長、ホストのサポート、パネリストのサポート:

備 品:今後のオンライン研修に使う備品を購入準備していく(約20万円)→提案書作成

## 【次回専門研修会】

講 師:玉木千賀子氏

日程候補:2021年2月24日(水)予定

会場候補:P'sスクエア

〔広報部〕 長

□ MSW ニュース 12月号編集担当;下地さん(那覇市立病院)

□ 協会公式LINE加入者数;97名(11/13現在)

□ 協会ホームページアクセス数 10月;1,245件(9月;1,238件)

アクセス割合 PC;45% スマートフォン;55%

〔社会活動部〕 秦

□ ソーシャルワーク学会会議について報告を受けました。

日 時:2021年2月20日(土) 午前:演題発表 午後:アンケート結果をもとにディスカッション

場 所:P'sスクエア(Web参加)

演題者:大浜第二病院から1演題エントリー

・今年度は会場費が発生するため4団体で分担

〔事務局〕 伊禮

□入退会報告 入会届：0人 所属先変更：0人 退会届：1人

□琉球大学病院がん相談支援センター：はいさいワーク登録について報告を受けました。

□理事会：入会後の銀行引き落とし申請方法について提案を受けました。

現在の沖縄銀行窓口に申請書提出を郵送で手続きすることと、切手代年間約2000円(新入会20名強とした場合)を協会負担とすることを承認しました。

□理事会：多職種コンソーシアムについて報告を受け意見交換を行いました。

日時：2020年11月22日(日) 10:30～16:30(参加者打ち合わせ9:40)

場所：総合福祉センターゆいホール

参加者：(主)伊禮 (副)當銘、秦、長、井上、安慶名(6名)

□大浜第一病院：「日本病院学会」の後援依頼を受け承認しました。

日時：2021年6月10日(木)～11日(金) オンラインと会場

□沖縄県ケアマネ協会：「第12回日本介護支援専門員協会九州・沖縄ブロック研究大会 in 沖縄」及び「第17回沖縄県介護支援専門員研究大会」の後援依頼を受け承認しました。

日時：2021年1月15日(月) オンラインと会場

#### <その他 報告協議事項>

□理事会：コロナ病床確保のための転院・退院について報告を受け意見交換を行いました。

□理事会：九州協議会会長会の報告を受け意見交換を行いました。

・次年度はオンライン形式開催できないか検討していただく(会長会としては宮崎大会を推す)

・今年度の分担金の支払いは無し

・九州協議会会長は1年交代(順番)から互選、任期2年とする。

□なごみ会：令和2年度第1回沖縄県医療保険連合(なごみ会)幹事会(書面会議)の開催に伴う議題照会について意見交換を行いました。⇒議題なし

□MSW協会会長会：「いのちのとりで“裁判全国アクション”についての署名依頼の報告を受けました。引き続き協議することを確認しました。理事メールで協議(活動主体、活動趣旨確認)

□理事会：沖縄県入退院支援連携デザイン事業について報告を受け意見交換を行いました。

・11月16日(月)に2020年度事業費が振り込まれる予定。人件費、備品、印刷費等に充てることを確認しました。

□理事会：会費について意見交換を行いました。

※次回理事会 2020年12月21日(月)19:00～ @沖縄県総合福祉センター

司会：安慶名 書記：長 連絡：香村

議事録署名人 新垣 哲治

## ☆編集後記☆

沖縄もようやく過ごしやすい気温となりましたね。今年は新型コロナウイルスの影響もあり例年以上に慌ただしい1年だったかと思います。残り1ヶ月引き続き感染対策に気をつけて過ごしていきましょう。

日々の業務で忙しい中、快く原稿を引き受けてくださった会員の皆様、ご協力いただきありがとうございました。



～医療と福祉の架け橋～ 一般社団法人

**沖縄県医療ソーシャルワーカー協会**

Okinawa Association of Social Workers in Health Services

<http://www.msw-oaswhs.jp/>

